【教育目標】確かな知性　豊かな感性　健全な心身

令和７年度　墨田区立桜堤中学校　学校だより　＜７月号＞

NEW EDUCATION AND TRADITION

スローガン：つなぐ伝統　築こう未来

発行日：令和7年7月1日(火)
発行者：校長　吉岡　大司

「なぜ僕らは働くのか」

校長　吉岡　大司

まだ、７月なのに、玄関を出た途端に、首筋を太陽にジリジリと焼かれ、通勤途中も歩道で信号を待つ間も日陰を探してしまいます。ニュース報道等でも、最高気温が３５℃以上の猛暑日が、４８地点に達し、東京都は、６月の真夏日日数の最多記録を更新しているとあります。

「常識を超えた暑さ」に、梅雨明けを思わせる太陽の日差しが続き、私自身、今までの経験則から、お手紙や通知には、時候のあいさつを添えるのが礼儀だと教わり、今頃であれば「梅雨の候、お変わりなくお過ごしのことと存じます」といったものや夏の足音がかすかに聞こえ始めたら、冒頭の句を「向暑の候」と書き始めていましたが、しかし、最近では、夏本番の「猛暑」「酷暑」「炎暑」などの季語となり、年々、夏の訪れが早まっている気がしてきています。

さて、早いもので、新学期を迎えてから約３ヶ月が過ぎました。大きな学校行事である運動会や３年生の大阪万博・京都の修学旅行、２年生を中心に台北市立萬華国民中学校との国際交流、１年生の三浦半島移動教室はもとより、委員会や係活動、部活動、そして、授業にも真剣に取り組む５１３人の桜堤中生の姿をたくさん見ることができました。子どもたち一人ひとりが、行事を経験するごとに成長していく様子を、頼もしく感じています。特に、１年生は、中学校に入学していろいろと戸惑いながらも、先輩たちを見習い、一生懸命学校生活を送っていました。２年生は、後輩の良き手本となろう、そして、先輩から良き伝統を引き継ごうと、前向きに学校生活を送っていました。３年生は、最高学年としての行動と、リーダーシップを発揮して、学校生活を送ってきました。

また、過日、地域・ＰＴＡの皆様方には、生徒の健全育成のための白鬚神社や隅田川神社等の祭礼夜間パトロールを実施していただき、感謝申し上げます。

そして、７月８日（火）から３日間。２年生が職場体験を実施します。そこで、一度は、手に取ってページをめくってほしい一冊を紹介します。それは、池上彰氏が監修した「なぜ僕らは働くのか」（Ｇａｋｋｅｎ）という本です。漫画とイラスト満載で、読みやすいと思います。

本文に「なぜ僕らは働くのか」この問いには、１００人いれば１００通りの答えがある。そして、この本のあとがきに「子どもにとって、大人というのは遠い存在に見えるものです。働いていて、家のこともやって、（子どもからすると）たくさんのお金を持っていて。「この人たちは知らないことなんてなくて、悩むこともあまりない。大人は自分とは違う生き物だ」なんて思ってしまいがちです。しかし、実際に自分が大人になってみると、大人ってそんなにすごくありません。立派そうに見えるだけで、根っこの部分の気持ちや感覚は、子どものころとそんなに変わらないのです。・・・中略。「働く」は、多くの人にとって大事なテーマであり、ずっと続く関心事です。とあります。

中学生の時期は、好きなことや得意なこと、考え方、将来を思い描き始める時期でもあります。

「やりたい仕事や将来の夢が浮かばない」といった人は、「自分はダメだ」と考えてしまうかもしれません。思春期に入ると、人に無理に合わせたり、背伸びをしたり、自分に自信がなくなったりすることがあるものです。そんな人には、ドラえもんに向かって、のび太クンが反省して言った名言「一番いけないのは、“自分なんかダメだ…”と思い込むことだよ」という言葉を贈ります。

また、７月２２日（火）から６日間は、三者面談を実施します。面談では、担任と生徒、保護者の方で、ここまでの頑張りや今後の課題、夏休みをどのように過ごしたらよいのかなどを話し合い、夏休み明けの学校生活に反映させていけたらと思います。 生徒たちが、２１日（月）からの長い休みを過ごすにあたり、目標を持って、自分を成長させることができる有意義な夏休みにしてほしいと願います。